

数多くの重要法案が審議される厚労委員会 緊張感をもって進めて参ります

高階 恵美子 参議院議員



心を通わせて、ともに使命を果たして参りましょう。



自民党本部で開催された、第1回女性の健康の包括的支援に関するPT。(1月8日)

政治力を培うことに注力しながら、日々精進し、政務にあたってまいります。ことに私が担当する厚生労働委員会は、今国会においてもまた、最も多くの法案を審議する予定ですし、なおかつ、その中には与野党の対立案件をも抱えています。緊張感の続く中にもユーモアを忘れず、がんばりたいと思います。

参議院での国会運営

国会にとって1月から2月は、国家運営の財源を充当する大切な時期です。政府与党には、税制改正等の細目を取りまとめ、国会審議を経て次年度予算を成立させる責任が課せられています。今年は年度内に予算を成立できましたが、これは数年ぶりのことでした。

政権が戻って2年目となるわけですが、今なお折に触れて、政治の停滞が国民生活に与える深刻なダメージを目の当たりにしております。そしてまた修復に要する時間・労力の大きさに焦燥感を覚えることもしばしばです。甘えずおごらず油断せず、我が身の

新たな政策の提言

昨年10月に自民党政務調査会のもとに設置され、私が座長を務める「女性の健康の包括的支援に関するプロジェクトチーム」については、国内外で先進的な取り組みを進めておられる有志の方々からの強力なバックアップを得て、充実した議論ができました。今後は3月末に公表する報告書に基づいて、この政策課題に関する国内の様々な対策が打ち出され、法的基盤整備等が充実していくことを願い、活動を進めて参ります。

また関東近圏を中心とした2月の雪害によって、看護師国家試験にも大きな弊害が生じました。このことは卒業生の就業や4月からの地域医療提供に直接の悪影響を及ぼす大問題でした。

アジア・アフリカ国会議員能力強化プロジェクト Part II。今回の会議に参加された各国議員の皆様と。(2月11日)



会議に続いて各地を視察。人口問題の現場をこの目で見て参りました。(2月12日)

看護連盟はもとより、自民党本部の災害対策特別委員会、自民党国会議員からなる看護問題対策議員連盟、そして日本医師会が一丸となって、それぞれの立場から、被災した受験者の救済を求める要請行動を展開しました。その結果、今回に限って再試験を実施するという歴史的な対応を実現していただきました。

今後は看護師国家試験の実施方法の見直し、災害対策基本法上に災害発生時の看護師国家試験等の取り扱いを明記する法改正を行うなどの所要の措置を講じる必要があると考えています。看護問題に係る政治的役割はとて幅広く重要であるといふことを実感します。

国際交流・国際貢献

雪害と言えは、たかがいも、閉鎖された成田空港の機内で朝を迎える経験をしました。人口と開発そして食料安全保障に関するアジア・アフリカ国会



第81回自民党大会では、松本洋平青年局長とともに司会の大役を務めました。(1月19日)



大雪害に見舞われた今年の看護師国家試験について公平な救済措置を、田村厚労大臣に要請しました。(2月27日)

議員会合に参加するために出国したのですが、開催地ウガンダに到着するまで3日を要しました。

そこでは、参加諸国の国会議員のみならず心温まるご配慮をいただき感動しました。抛出国である日本からの代表者到着を待ち、会議日程を変更してくださったのです。このお陰で私は、つつがなく主催者代表演説を行い、すべてのセッションに参加することができました。

ウガンダの国会議長は女性で、昨年10月には参議院議長の招待を受けて日本の国会を訪ねてくださいました。今回はウガンダでの議員外交となったわけですが「日本の国会は男性ばかりで驚いた」との率直な感想をいただくとともに「女性の国政参加の促進につい

て、アフリカ諸国から日本へ支援がでさそうですね」と水を向けられる場面もありました。アフリカ諸国の多くは、国会議員の男女比が同等であったり、助産師を始め多くの女性たちが重要な職位に就くなどしています。このため、社会的・政治的な面で比較すると、確かに日本とは相当の隔りがあるのです。

女性の政治参加を支えよう！

来る統一地方選挙に向けて、党本部からも盛んに女性の候補者擁立を要請されています。たかがいは平成24年10月から平成25年9月まで、参議院自民党の副幹事長として、平成24年冬の衆院選、平成25年夏の参院選に関わらせ

ていただきました。

その過程では、何としても有力な女性議員を誕生させたい・増やしたいと、総裁を始め党執行部が総出で、候補者調整を行いました。しかし、最後の決断をする時点でほとんどの方が、周辺環境が整わないことなどを理由に立候補を断念するという厳しい現実に向き合ってきました。

この壁を乗り越える有効策を出すことが、必ずや我が国の国会でも女性議員割合の引き上げにつながると思います。実効性の高い政策目標を掲げ、確実にそれを実現する。その知恵を、私たち看護職が発信していくことも可能ではないか？

私は最近とくに強く、そう思っています。

たかがい塾では大学院で看護政策を学ぶ皆様から、現場の声をいただきました。



日本赤十字看護大学大学院の皆様と。(1月8日)



東京医科歯科大学大学院の皆様と。(2月17日)